

授業科目名	舞台芸術実践論	担当教員	杉山 至 深澤 南土実 李 知映 河村 竜也
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第1クォーター		
講義内容	舞台芸術作品をつくるに際して必要な事柄を、演出家や舞台監督の役割、舞台美術の仕事、大道具備品の構成と管理、照明・音響の操作、作品の取り扱いや管理、および劇場運営や広報の意義、舞台芸術作品の劇評や創作の背景等を一通り学び、舞台芸術全般について基礎的な知見と理解を得る。		
到達目標	舞台芸術作品の創作や概観について理解を深め、実際に取り組む上での基礎的な知見について説明できる。		
授業計画	1回目 授業概要説明ガイダンス (担当 担当教員全員) と 舞台スタッフワーク 1 (舞台美術、舞台大道具、劇場機構について) (担当 杉山 1) 2回目 都市と劇場文化 (担当 李 1) 3回目 舞台芸術業界におけるの専門家とは (担当 李 2) 4回目 誰が劇評を書くのか (担当 李 3) 5回目 セノグラフィの発想を歴史から概観する (担当 杉山 2) 6回目 舞台芸術における作品と創作背景 (担当 深澤 1) 7回目 身体と映像 (担当 深澤 2) 8回目 振付とダンサー (担当 深澤 3) 9回目 舞台スタッフワーク 2 (演出と劇作から現場スタッフについて) (担当 杉山と外部講師 (松井周・劇作家/演出家)) 10回目 舞台スタッフワーク 3 (舞台照明の基本について) (担当 杉山と外部講師 (魚森理恵・舞台照明家)) 11回目 舞台芸術作品の進行 (担当 河村 1) 12回目 仕事を発注する、発注を請ける (担当 河村 2)		
事前・事後学習	参考文献の一読など、授業内で指示する。		
テキスト	必要に応じて授業中に配布する。		
参考文献	平田オリザ『演劇入門』(講談社現代新書 1998年)、『演技と演出』(同 2004年)、深澤南土実『バレエ・デ・シャンゼリゼ: 第二次世界大戦後フランス・バレエの出発』(法政大学出版局)		
成績評価の基準	授業への取り組み (受講態度、授業への貢献度、リフレクション、授業内課題を含む) 100%		

履修上の注意 履修要件	1 年次配当科目「劇場文化と舞台技術」「舞台芸術基礎実習」を受講していることが望ましい。
実践的教育	授業内ワークショップあり。
備考欄	履修希望オーバーの場合は抽選となる。ゲスト講師との日程調整によって授業計画の一部に変更が生じる場合もある。 2021 年～2024 年度入学生：「舞台芸術入門」 R 8～